

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団	
施 設 名	彩の国さいたま芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	新芸術監督体制への移行～多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場へ～	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	56,031	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）新芸術監督体制への移行～多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場へ～

ミッション

1. 世界に通用する舞台芸術を創造・提供する
2. 県民に対し、満足度の高い芸術文化活動の実践の場を提供する
3. 社会や地域の課題に対し、芸術文化活動を通じてその解決に貢献する

次期芸術監督との
イメージ共有・
企画立案

全職員によるミッションと課題の共有
解決策の検討・提案

持続可能な組織
人材活用

社会・地域における課題発見

財源確保

広報の充実

ニーズの把握

ビジョン

多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場へ

新芸術監督の就任
（令和4年4月～）

事業の実施
（アウトプット）

埼玉県との連携

創造・発信

世界に通用する
舞台芸術の創造・発信

ジャンル・クロッシングな
事業企画

普及啓発

県内学校と連携した
アウトリーチ事業と
キャラバンによる県内巡回

親しみやすい舞台芸術
プログラムによる観客育成、
裾野の拡大

親子で楽しめる良質な舞台
芸術プログラムの提供

社会包摂

高齢者・障がい者等による
舞台芸術表現の可能性の追求

多様な人々に参加できる
芸術文化活動の推進

ダイバーシティ・シアター
（仮称）

人材養成

次代を担う
アーティスト・
専門人材の
育成

若手ダンサー、
演奏家、落語家
等の起用

大学等との連携

芸術文化活動への支援
貸館事業の促進

事業のオンライン展開

大規模改修工事による劇場のバリアフリー化等利便性向上
（令和4年10月～令和6年3月）

アウトカムの発現

- 良質かつ先進的な舞台芸術の創造・発信・育成
- 多様な世代・属性の人々が文化芸術を鑑賞・体験する機会の拡大
- 舞台芸術による社会包摂的アプローチの推進

(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ第37弾『終わりよければすべてよし』	5月12日～5月29日	出演：藤原竜也、石原さとみ、吉田鋼太郎 他 演出：吉田鋼太郎	目標値	13,356
		大ホール		実績値	14,356
2	コンドルズ埼玉公演 2021 新作	6月5日～6月6日	出演：コンドルズ 構成・映像・振付：近藤良平	目標値	1,711
		大ホール		実績値	1,739
3	ディミトリス・パパイオアヌー 新作	4月22日～4月25日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	2,281
		大ホール		実績値	-※
4	メリル・タンカード&ナタリア・オシポワ『TWO FEET』	9月16日～9月19日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	2,281
		大ホール		実績値	-※
5	バットシェバ舞踊団『HORA』	1月21日～1月23日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	1,711
		大ホール		実績値	-※
6	バッハ・コレギウム・ジャパン	12月19日	曲目：ヘンデル：オラトリオ《メサイア》HWV 56 出演：鈴木雅明（指揮）他	目標値	513
		音楽ホール		実績値	515
7	埼玉会館オーケストラ公演	10月11日※	曲目：ベートーヴェン：劇音楽《エグモント》序曲 他 出演：NHK交響楽団 他	目標値	1,109
		埼玉会館 大ホール		実績値	823※
8	人材養成事業（さいたまダンス・ラボラトリ）	8月、3月	講師・振付家：湯浅永麻、小尻健太（8月）、ダニエル・リネハン（3月）	目標値	20
		大ホール他		実績値	40
9	さいたまネクスト・シアター	8月5日～8月15日※	出演：さいたまネクスト・シアター 作：細川洋平 演出：岩松了	目標値	2,128
		小ホール		実績値	1,536※
10	ピアノ・エトワール・シリーズ	4月17日～2月26日 (一部中止)※	出演：河村尚子（4月）、小林愛実（2月）	目標値	1,932
		音楽ホール		実績値	989※
11	彩の国さいたま寄席～四季彩亭	4月24日～1月15日※	出演：三遊亭小遊三、立川志らら、瀧川鯉八、春風亭昇吾 他	目標値	1,100
		小ホール		実績値	747※
12	舞台技術講座	7月、3月 (一部中止)※	講師：彩の国さいたま芸術劇場技術スタッフ 他	目標値	200
		大ホール		実績値	54※
13	大学等との連携	通年	講師：当財団職員	目標値	50
		埼玉大学他		実績値	66

14	光の庭プロムナード・コンサート	5月15日～3月26日※	出演：和田純子（オルガン）、庄司知史（オーボエ） 他 構成：大塚直哉	目標値	1,600
		情報プラザ		実績値	724※
15	イレブン・クラシックス	6月9日、2月22日	出演：葵トリオ（6月）、森谷真理、山田武彦（2月）	目標値	756
		音楽ホール		実績値	698
16	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	6月28日～2月13日（一部中止）※	出演：邦楽アンサンブル（吉川由里子、平野寿里、佐々井麻矢）他	目標値	300
		県内小中学校		実績値	207※
17	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！	10月7日～12月10日	講師：川合ロン、藤田善宏	目標値	350
		県内中学校		実績値	365
18	みんなのオルガン講座	7月4日～1月30日	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	92
		大練習室他		実績値	167
19	さいたまゴールド・シアター	12月19日～12月26日	出演：さいたまゴールド・シアター他 作：太田省吾 構成・演出・美術：杉原邦生	目標値	1,721
		大ホール		実績値	1,926
20	パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム	通年	講師：スターダンサーズ・バレエ団	目標値	300
		オンライン		実績値	441
21	バリアフリーセミナー	3月17日	ゲストスピーカー：鯨エマ 他	目標値	100
		映像ホール		実績値	45
22	親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業（『かがみまど とびら』埼玉公演）	7月18日	出演：伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子 作・演出：藤田貴大	目標値	180
		大ホール		実績値	184

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>令和3年度からの新たな事業計画では、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 世界に通用する舞台芸術の創造・提供2. 満足度の高い芸術文化活動の実践の場の提供3. 芸術文化を通じた社会課題解決への貢献 <p>という3つのミッションを掲げ、「多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場」を目指し、「創造・発信」「普及啓発」「社会包摂」「人材養成」を柱として彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館等で事業を展開した。新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ず一部の公演が中止となり、集客面で想定していた結果が得られない事業があったものの、実施した事業内容には評論家等から好意的な評価が得られ、助成対象事業の合計で約25,000人の方に良質な舞台芸術の鑑賞機会や体験機会を提供することができた。当初の計画から大きな変更や祖語は生じていないと自己評価する。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響については、(3) 効率性を参照のこと。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>文化的意義</p> <p>蜷川幸雄前芸術監督が立ち上げた「さいたまゴールド・シアター」「さいたまネクスト・シアター」は公共劇場ならではの取り組みとして国内外から大きな注目を集めた。両事業で培った作品プロデュースのノウハウ等を生かし、当劇場では平成28年から吉川市、平成30年から東松山市の芸術文化事業に対する支援を行っており、拠点劇場として県内における芸術文化の裾野の拡大にも貢献している。また、「さいたまゴールド・シアター」の活動に触発された同世代の有志が劇団をつくり、当劇場や市内の公共施設等で自主公演を実施するなど様々な形での波及効果が見られる。</p> <p>複数年継続事業である「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!」「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!」では、県内における芸術鑑賞機会の地域格差の是正や中学校におけるダンス教育の質の向上に資することができた。</p>
<p>社会的意義</p> <p>「大学等との連携」では地域および首都圏の大学と連携してアートマネジメント人材の育成に取り組んでいる。埼玉大学では約20年にわたり「アーツと社会（アートマネジメント概論）」の講義に非常勤講師として職員を派遣するほか、平成29年からは放送大学埼玉学習センターでも同様の講義を受け持っている。また、毎年10名程度の大学生をインターンシップで受け入れ、アートマネジメントの現場を実地で学習する機会を提供している。インターンシップに参加した学生が卒業後に各地の劇場や芸術団体に就職するケースも多数あり、学生のキャリア形成に一定の貢献を果たしている。</p> <p>「パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム」では、オンラインを活用することで全国各地の患者さんを対象に、自宅にいながらダンスを通じて社会とつながる機会を提供でき、生活の質の向上に資することができた。対面とオンラインライブ配信を併用して実施した「バリアフリーセミナー」では、参加者に対する情報保証のため、初めての試みとしてライブ字幕を導入した。これは障がい者だけでなく、あらゆる人に対しての情報保証であり、劇場にとっても今後の配信におけるノウハウを蓄積するという点で取り組む価値のあるものとなった。</p>
<p>経済的意義</p> <p>助成対象事業に係る入場者・参加者約25,000人のうち半数以上が「彩の国シェイクスピア・シリーズ第37弾『終わりよければすべてよし』」の来場者である。遠方も含め県内外から多数のお客様が劇場を訪れることで、交通機関や飲食店等の地域経済に大きな影響を及ぼしていると考えられる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

目標「トップクラスの舞台芸術作品の創作・発信」

予定していた7事業のうち3事業(事業番号③、④、⑤)が新型コロナウイルス感染症により中止となったため、目標としている7事業に届かなかった。

中止となった3事業を除いた①、②のアンケート結果によると県外からの来場者比率は56.1%であり、この指標についても目標の65%を下回った。

トップクラスの舞台芸術作品を鑑賞できたことに対する満足度は、⑥、⑦いずれも97%以上の高い満足度であった。

海外招聘による質の高いダンス作品の提供ができなかったものの、実施できた事業に対しては好意的な評価が得られた。これまでの実績からダンス作品の観客層は県外比率が高いことを考慮すると、中止となった3事業が実施できていた場合は、県外からの来場者比率も高まると思われる。

目標「多様な世代の舞台芸術へのすそ野拡大」

多様な世代へ生演奏の鑑賞機会を提供する⑭、⑮では、「子育て世代及び高齢者の鑑賞者の合計の割合:50%以上」を目標としていたが、それぞれ⑭40.8%、⑮44.4%にとどまった。⑭はコロナ禍では感染症対策として事前申込制(定員あり)としているが、子育て世代や高齢者の割合を増やすための方策を検討する必要がある。

劇場外(オンライン含む)で行った3事業(⑯、⑰、⑳)の実施回数の合計は19回で、目標の20回には届かなかったが、⑯では新型コロナウイルス感染症の影響により1校で中止となっている。

⑱については「パイプオルガンへの興味・関心が深まった割合:50%以上」「パイプオルガンに関する意欲や技量が向上した割合:70%以上」を指標としているが、いずれも100%の回答を得られ、本事業がパイプオルガンを用いた教養プログラムとして成果をあげていることが確認できた。

⑳における子供の鑑賞者の割合は目標の30%を上回り、多くの子供に舞台芸術を楽しんでいただくことができた。

目標「次代を担う芸術家・舞台芸術の担い手の育成」

人材養成事業として実施している3事業(⑧、⑨、⑫)では、アンケートに回答した全員から「今後の活動に役立つ」との回答が得られ、本事業が次代を担う芸術家・舞台芸術の担い手の育成に寄与していると自己評価する。

⑩は当初予定していた4公演のうち2公演が中止となったが、当劇場に初めて出演するピアニストの割合は50%となり、本事業が若手ピアニストのステップアップの場としても機能することができた。

⑪の出演者のうち二ツ目、前座の割合は40%で、本事業がキャリア形成過程にある若手にとっての技芸研鑽の場としても寄与することができた。

⑬では、インターンシップに参加した5人中5人と放送大学埼玉学習センターの受講生でアンケートに回答した全員から「芸術文化への興味・関心が深まった」という回答が得られた。

目標「多様な人々が参加できる舞台表現活動の推進」

⑱、⑳の2事業を実施した。⑳では目標を大きく上回る441人の参加があり、多様な人々に対し、舞台表現活動に参加する機会を提供することができた。

目標「バリアフリーの推進による鑑賞・体験機会の拡大」

⑳は地域の感染状況等を考慮し、オンラインのみでの開催としたため、オンライン活用による参加率は100%であった。今後、対面とオンラインの併用で開催した際にも指標としている50%以上を維持できるよう努める。

また、㉑ではアンケートに回答した全員が「今後の活動に役立つ」と回答し、バリアフリーへの理解を深めることに寄与した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

新型コロナウイルス感染症の影響

助成対象の22事業のうち3事業（事業番号③、④、⑤）が感染拡大防止に伴う渡航制限等の影響を受け中止、3事業（⑩、⑫、⑯）で一部中止となった。③は平成31年に『THE GREAT TAMER』で当劇場にて初来日公演を行い、大きな話題となったアーティストによる新作をいち早く日本の観客に紹介する予定であった。④は当初令和2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演延期となり、今年度もやむを得ず中止することとなった。⑤は当初同カンパニーによる新作の上演を予定していたが、コロナの影響で新作の創作が困難となり、日本未発表作品である『HORA』（2009年）に演目を変更した上で公演を予定していたが、残念ながら来日できなかった。⑩のうち外国人アーティストによる公演は実施できなかった。⑫、⑯は学校に赴いて研修会や演奏会を行うものであるが、まん延防止等重点措置等の影響を受けて、一部が実施できなかった。

⑦は東京五輪の1年延期に伴い、公演日が祝日から平日に変更となってしまったため、思うように集客ができなかった。⑨、⑪では公演時の感染状況や、高齢の客層等を考慮し、定員の50%でのチケット販売としたため、目標値には届かなかった。⑭は劇場内のオープンスペースで誰でも気軽にコンサートを楽しんでもらうことを目的とした事業であるが、コロナ禍では感染拡大防止の観点から事前予約制（定員あり）に切り替えて事業を続けている。⑰は当初劇場内での対面クラスとオンラインの双方での開催を想定していたが、地域の感染状況等を考慮してオンラインでのみ開催した。

事業期間

県内小中学校へのアウトリーチプログラムである⑯と⑰は、実施の前年度の1月から3月頃にかけて実施校の募集や調整を行っているため、要望時は実施日程等を未定としている。

⑱は、要望時は2月に実施予定としていたが、⑫の「さいたま舞台技術フォーラム」と合同開催することになったため、調整の上、3月の開催となった。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない事業については、事業期間に大きな変更はなく、当初の計画通りに進んでいる。

事業費

令和3年度の助成対象経費の総額

（要望時）307,229,000円－（決算時）212,901,556円＝（差額）94,327,444円

減額の最も大きな要因は③、④、⑤の海外招聘ダンス公演の中止で、3事業合計でおよそ55,700千円の差額が生じた。また、⑩においても要望時に予定していた4公演のうち海外アーティストによる2公演が中止となり、約6,000千円の差額が生じた。

演劇作品を創作初演した①、⑨、⑲の3事業合計でおよそ23,000千円の差額が生じた。変更率としてはいずれも20%以内にとどまったものの、積算の精度を高める余地がある。

その他の事業における要望時と決算時の差は比較的少額であり、事業費が適切に積算されていたと自己評価する。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

平成 28 年に逝去された蜷川幸雄前芸術監督の遺したレガシー（彩の国シェイクスピア・シリーズ、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター等）を継承しながら、エグゼクティブ・プロデューサーやダンス部門のプロデューサーを中心に企画制作した事業を展開した。また、令和 3 年度は近藤良平氏が彩の国さいたま芸術劇場の次期芸術監督に就任し、次年度以降のプログラムの準備を行った。

演劇部門

○シェイクスピアの全 37 戯曲の完全上演を目指す「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、シリーズの最終作となる『終わりよければすべてよし』を上演した。当シリーズは、当財団の企画制作による看板事業として国内外から高い評価を得ており、芸術性と娯楽性を兼ね備えた演劇作品を創造・発信することで、我が国の舞台芸術の水準向上に資することできた。公演開催に合わせて、作品理解を深める連続講座「彩の国シェイクスピア講座」や劇場内のオープンスペースでのプレコンサート「さいたまアーツシアター・ライブ!!」、舞台写真展などの関連企画を開催することで、シェイクスピア作品の多様な楽しみ方を提供し、劇場内の賑わいの創出も図った。

○「さいたまゴールド・シアター」は平成 18 年の結成以来、高齢社会を背景に社会的にも大きな注目を集め、訓練されたプロの俳優とは異なり生活者のリアルを背負って舞台に立つ姿は演劇界に新しい風を吹き込んだ。高齢者劇団のモデルケースとして全国的に認知され、海外のプレゼンターにも一目置かれる劇団へと成長し、劇場の認知度や評価の向上にもつながったと考えられる。令和 3 年度は最終公演として太田省吾の代表作である沈黙劇『水の駅』を上演した。平均年齢 81 歳のメンバーにとって一切のセリフを排し、極端にゆっくりとした体の動きだけで演じることは大きな挑戦であったが、「劇評家が選ぶ 2021 ベストステージ」(TEATRE ARTS 2022 春 66) の第 1 位に選ばれるなど作品は高い評価を受けた。同事業のコンセプトや成果は埼玉県との共催で行った「1 万人のゴールド・シアター2016」や「ゴールド・アーツ・クラブ」「世界ゴールド祭」の企画・開催にも継承され、当劇場が社会包摂的な意味合いの強い事業に取り組みきっかけとなり、また、海外で同様の取り組みを行う劇場や団体とのネットワーク形成にも寄与した。

○若手俳優育成プロジェクトとしてスタートした「さいたまネクスト・シアター」では、12 年間の活動の集大成として最終公演『雨花のけもの』を上演した。蜷川幸雄氏の演出でシェイクスピアやギリシャ悲劇などに取り組み、無名の若手俳優集団でありながら「読売演劇大賞優秀作品賞」を 2 作品連続で受賞するなどの成果をあげてきた。集団にとって初めての書き下ろし作品となった最終公演では、近年注目を集める演劇カンパニー「ほろびて」の細川洋平に新作書き下ろしを委嘱し、岩松了の演出で上演。劇評では特にメンバーの演技力に対して好意的な評価が得られた。集団から巣立ったメンバーの中には現在も俳優として活躍しているものが多く、人材養成事業としても一定の成果をあげられたものと考えている。

○「彩の国シェイクスピア・シリーズ」「さいたまゴールド・シアター」「さいたまネクスト・シアター」の 3 つの事業について、それぞれ最終作品を上演した今年度は演劇評論家らによるアンケート「私が選ぶベストワン 2021」(join No.102) の団体部門において、最も多くの方から当劇場の名前が挙げられた。

○「親子で楽しめる舞台芸術作品の提供事業（『かがみ まど とびら』埼玉公演）」では、令和 2 年度にマームとジプシーの藤田貴大作・演出で創作初演した作品を再演した。本作品は平成 30 年初演の前作『めにみえない みにみしたい』と同じくツアー公演を前提とした作品であり、さいたま公演を皮切りにこの 2 作品の巡回公演を行った。次代を担う演劇作家による、幅広い年齢層を対象とした作品の鑑賞機会を全国 9 会場で提供することができ（新型コロナウイルス感染症の影響により 3 会場で中止）、『めにみえない〜』初演以来、2 作品合計で延べ 7,830 名を動員している。

舞踊部門

○当劇場では開館以来、ピナ・バウシュ、ネザーランド・ダンス・シアター、ラララ・ヒューマン・ステップス、ローザス等世界の最先端のダンスをいち早く紹介してきた。「ダンスのさいたま」は当劇場のもう一つの顔であり、これまでに県内のみならず県外からも多くのお客様にご来場いただいている。世界のトップレベルの舞台芸術の鑑賞機会を提供することで、我が国の舞台芸術の知的水準の向上に資することができ、また、実績を積み重ねることで、海外における当劇場の認知度向上や劇場スタッフのスキルアップにつながると考えられる。引き続き当劇場ならではのプログラムを提供し、我が国のダンス界を牽引する事業を展開していきたい。令和3年度は3本の海外アーティストによるダンス公演を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止となった。

○近藤良平率いるダンスカンパニー「コンドルズ」は平成18年以来毎年当劇場オリジナル作品を創作・上演しており、令和3年度は新作『Free as a Bird』を上演した。ダンスをはじめ、生演奏、影絵、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、県内外で観客のすそ野を拡大してきた。観客がダンスを身近に感じられるようになるだけでなく、近年の作品は当劇場大ホールならではの機構を生かしたダイナミックな演出や他のコンドルズ作品とは趣向の異なる作家性が注目され、芸術的な側面からも評価が高まっている。

○平成30年度からスタートした「人材養成事業（さいたまダンス・ラボラトリ）」では、Vol.4として8月に小尻健太、湯浅永麻による集中ワークショップと公開リハーサル、Vol.5として3月にP.A.R.T.S.で研鑽を積み、ベルギーを拠点に活躍する注目のアーティスト、ダニエル・リネハンによる集中ワークショップを実施した。ダニエル・リネハンによる「Miracles of Sensitivity-感じることの奇跡」と題されたワークショップでは、受講者から「これまでダンスをしてきて、こんなにも身体に素直に心に素直に表現することは初めてで、とても心地よいアウトプットの時間でした」「自分の価値観、身体に大きな影響を受けたワークショップだった」などの感想が得られ、技術面だけではない身体表現の奥深さを学んでいただく機会を提供できた。また、コロナ禍で外国人アーティストによる直接指導を受けられる貴重な機会ともなった。本事業の受講者がP.A.R.T.S.を受験し、合格するなど人材養成事業としても成果が見え始めている。

音楽部門

○音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、劇場所有のポジティブ・オルガンを活用した無料コンサートや教養プログラムもあわせて展開することで、鑑賞機会の提供のみならず普及啓発にも取り組んでいる。

○日本が世界に誇る古楽アンサンブル「バッハ・コレギウム・ジャパン」は、平成11年に初登場して以来、毎年継続して公演を行なっており、楽団とホールがともに成長してきた経緯がある。平成28年度からは提携契約を結び、公演前の関連企画（曲目解説レクチャー等）を行うなど普及啓発活動にも努めている。本格的なクラシック音楽をさいたままで楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の素晴らしさを国内外に発信した。また、埼玉会館では平成19年以来毎年NHK交響楽団の公演を開催しており（平成27、28年の改修工事中を除く）、地域のニーズに応えるかたちで日本のトップ・オーケストラの演奏を身近に鑑賞できる機会を提供している。

○若手ピアニストの発掘・支援を目的としたリサイタル・シリーズ「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、昨年の「第18回ショパン国際ピアノコンクール」で4位入賞した小林愛実に早くから注目し、入賞以前から起用を決めるなど、発掘の目的を果たしつつ、観客にもいま注目を集める若手アーティストによる演奏会の鑑賞機会を提供することができた。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

経営・組織・人事

○当財団では平成 28 年 4 月 1 日で対象となる有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化した。平成 28 年以降の自己都合退職者は 5 名と少数にとどまっており（平成 29 年 2 名、平成 30 年 1 名、平成 31 年 2 名）、雇用の安定化を図ることで、組織活動を持続的に発展する基盤ができたと考えている。

○令和 2 年 6 月 10 日付で加藤容一新理事長が就任した。コロナ禍にあつて財団・劇場がどのような方向を目指すべきかを再確認し今後の事業計画に反映するため、全職員を対象に意見交換やアイデア募集を行い、本事業計画とは別に財団の組織運営理念として「Art for Life -すべての人生に芸術を-」を掲げ、ミッション、ビジョン、バリュー、ストラテジーを定め、全職員で共有した。その内容は本事業計画にも合致するものである。

財源確保

○当財団は埼玉県での 100%出資による公益財団法人であり、事業費の原資となっているのは指定管理料であるが、事業の安定的な運営のために民間助成金や協賛金等外部資金の獲得に努めている。中でも 118 社（令和 4 年 5 月現在）あるサポーター企業からの協賛金（年会費：1 口 10 万円）の割合が大きく、年に 1 回鑑賞会と懇談会の場を設け、当劇場の取り組みに対する理解を深めていただくとともに、コミュニケーションを図っている。近年はサポーター企業数が横ばいの状況が続いているので、新規会員の獲得に向けた営業活動に力を入れている。

○新型コロナウイルスの感染症の影響により利用料収入が減少する中で、当劇場がテレビドラマ等の撮影現場として利用される機会が増えており、年間 150 万円ほどの新たな収入源となっている。

広報・マーケティング

○令和 3 年度に実施した「彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館等に関する県民意識調査（インターネット調査）」の結果、当劇場および埼玉会館に対する意見として「知名度向上・情報発信」が最も多かった。また、劇場としても令和 4 年度から近藤新芸術監督を中心とした新体制がスタートするので、広報をこれまで以上に強化すべく、令和 3 年度から新たに twitter の「彩の国さいたま芸術劇場<総合>」アカウントを設置し、既存の各ジャンル個別の twitter からの発信だけではなく、総合的な情報発信を行っている。さらに知名度向上を目的として、財団のブランドムービーを制作し、令和 4 年 4 月 1 日に YouTube 上で公開した。なお、この「県民意識調査」は今後隔年で実施し、変化を観察していく予定である。これらの実施にあたっては、部署を横断した人材からなる広報チームを発展させ、戦略的な展開を可能にする体制を整えた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

(2) 有効性で述べたとおり、新型コロナウイルス感染症による影響を除けば、多くの指標で目標値を達成しており、計画の初年度としてアウトカムの発現・定着が期待できると自己評価する。